

デジタルハリウッド大学

2023 年度 一般選抜 B 方式

国語 [60 分]

【 注 意 事 項 】

1. 試験監督の指示があるまでは、問題冊子は開かないこと。
2. 試験監督から指示があったら、解答用紙に氏名・受験番号を正確に記入し、受験番号マーク欄にも受験番号を正確にマークすること。
3. 試験開始の合図後、この問題冊子を開き、44 ページ(白紙ページ含む)揃っているか確認すること。
4. 乱丁、落丁、印刷不鮮明などがある場合は、手を挙げて試験監督に知らせること。
5. 解答は、すべて別紙の解答用紙の解答欄にマークすること。
6. 試験開始から終了までの間は、試験教室から退出できません。
7. 不正行為を行った場合は、その時点で受験の中止と退室を指示され、同日受験したすべての科目の成績が無効となる。
8. 解答用紙は試験終了後、回収される。問題冊子は持ち帰っても良い。

第一問 次の小説の一節を読んで、後の設問に答えなさい。

漫画家になることをひそかに夢見ている高校生の佐々木修司（「僕」）は、いつか自分の漫画で活躍させたいと考えているキャラクターの、「ケルベロス」と「ちびフランケン」のいる想像の世界に浸りながら暮らしている。

夜、夕食と風呂を済ませてから部屋で机に向かっていると、父が急にドアを開けて入ってきた。

④泡を食った僕は、急いで（注）クロッキー帳を歴史の資料集の下に隠した。

「勉強か」

父は言った。

「うん」

「精が出るな。でも、ほどほどいい。お前には別に大学受験もないんだから」

父は、机にある閉じたままのノートパソコンに目をやって、

「それより、しっかりパソコン部でパソコンのことを学んでくれ。俺はもうついていけないんだ」

⑤「うん……」

「頼むぞ。うちみたいな小さな電器屋が生き残るには、地域の老人たちを相手にするしかない。家電やパソコンのことがよくわかっていない客を掴んで、懸命に役に立つしかないんだ」

「わかってる。それより、なに？」

父は、机の上に五千円札を置いた。

「今月の小遣い。渡してなかった」

「ありがとう」

父が部屋を出て、平穩が戻ってきた。

僕は辺りを見回した。

頭だけベッドの下に隠したケルベロスが、尻尾を股の下に入れ、お尻をふりふりさせている。ちびフランケン^{ちび}はカーテンの裏にいた。震える足が見えていた。

「もう大丈夫だよ」

僕が言うと、ケルベロスとちびフランケンは恐る恐る顔を出した。ケルベロスのみつつの頭はぶるぶると震え、耳を後ろに倒している。ちびフランケンは目をかたつむりの殻みたいに回して、左胸を押さえていた。

「ほら」

僕はバッグにつけているお守りの紐^{ひも}を解いて、彼らに示した。

この^(注2)高幡不動尊^{たかはたふでどうそん}金剛寺のお守りは、僕が小学生になった時に「通学の安全祈願に」と、母から貰^{もら}ったものだった。不思議なもので、どんな感情になつていようと、これを嗅がせればケルベロスは落ち着きを取り戻す。そしてきつと、ちびフランケンもそうだろう。ケルベロスのみつつの頭は、「ふんふん」と、黒豆みたいな鼻でお守りを嗅いだ。ちびフランケンも小さな指でお守りをつんつんした。するとたちまち、ケルベロスのむつつの耳が「しゃきん」と立ち、ちびフランケンの目のぐるぐるがびたりと止まった。

僕は、お守りを手のひらに載せて見つめた。

小学生から高校生になるまで、ずっとその時々バッグにつけていたので、ところどころがほつれ、鮮やかだった赤もすっかりくすんでいる。

それでも僕は、このお守りを一生近くに置いておこう。

体温計の水銀が下がっていくみたいに、ドキドキしていた気持ちが静かになっていく。

僕はお守りをバッグに結び直して、

「息抜きに行こっか」

席を立ち、みんなを連れて家を出た。



今夜はいつもに比べて湿度が低くて心地がいい。涼しい夜風が吹いていた。

それでも昼間と勘違いして鳴いているセミの声を聞きながら、僕は空き地でコンクリートのひび割れを穿^{ほじ}った。

取れそうで取れない、大物の欠片^{かけら}がある。僕はその欠片のはまっているひび割れに指を押し込んだ。ぐらぐらしているけど、まるで根が生えているように欠片は外れない。

X

僕は頭の中にこびりつく父との会話を忘れようとして、熱心にひび割れを弄^{いじ}った。

父は至極当然のように、僕が電器屋を継ぐものだと思っている。面と向かって僕の意思を確認したこともないのに。僕の気持ちも知らないのに。

僕が夢を打ち明けたら、父は激昂^{げきこう}するだろう。

じゃあ、母なら、何と言っただろうか。

きっと応援してくれる。

没入するまでまだいかない。また爪が欠けてもいいから掘り出したい。焦りと怒りで力が入ると、「ぴし」と音を立てて、コンクリートのひび割れが拡大した。

そこで思わず安堵の息が漏れたのは、その亀裂の先に、四年前に亡くなった母の笑顔があったからだ。

そうだ、と思う。

破片が取れ、少しだけ見えるようになった地肌には、いつも母の姿が浮かんでいる。母の顔、母の声、母の匂い、母の記憶。この場所をコンクリートが覆う前、まだ土でできていた地面のスクリーンに、ほんの一瞬だけ、生きている母が投影されるような気がする。

そんな気がするのは、きつとこのコンクリートを穿つて地肌を出すというのが「時間のかさぶた」を剥がしている行為だからだ。大人になっていくにつれて忘れてしまいそうになる母のことを、ここを穿ればいつでも思い出せる。もちろん思い出せば辛く、天秤も悲しみの方に傾いてしまうけれど、それでもひととき母に会えるという、もう片方の天秤に乗った喜びには変えられない。

この広場のひび割れは、僕の傷を無理やり治してしまおうとする時間のかさぶたそのものだ。だから僕はこれが好きなんだと、この時やっとな気がついた。

そして、とうとう観念したのでろう。長い対決ののち、ひび割れから大物の欠片が取れそうになった。ぐらぐらの幅が大きくなって、今にもいきそうだ。

僕はここぞとばかりに欠片を揺すった。

いよいよ取れそうな感覚が指先から伝わってきて、あとひと押しだと最後の力を込めた、その瞬間のことだった。

「なにしてんの？」

頭上から声が降ってきて、僕は硬直した。

よく知った声だった。

僕は、静かに顔を上げた。

だいたい橙色の弱い街灯の明かりを背後に、前かがみになった(注3)千歳ちとせさんがいた。

彼女は不思議そうに僕の手元を覗のぞき込み、

「なにそれ？」

ひび割れから「ぼそっ」と破片が取れた。

行き交う車の音とセミの声だけが聞こえる、夜の空き地。

コンクリートの欠片を持ってあぐらをかく僕と、膝に手をつけて腰を折る千歳さんは、黙って見つめ合った。

混乱して出口に殺到する思考から、かろうじて「なぜ、ここに」という思いが抜け出た時、手から欠片がこぼれてごとりと落ちた。

見られた。

千歳さんはじいっと僕と目を合わせて、僕の言葉を待っている。

僕は必死に言い訳を探した。けれど舌が絡まってしまって、「あ、う、え、お、う、あ」と金魚みたいに口をばくばくさせることしかできなかった。

「もしかして……」

千歳さんはニヤリとした。

「これ、秘密？ 佐々木くんの秘密の趣味？」

④僕は、たまたまず、ビートルの脇にいるケルベロスとちびフランケンに助けを求める視線を送った。すると、ちよこんと座ったケルベロスは「クウーン」と鳴いて顔を伏せ、ちびフランケンもサッとビートルの後ろへ隠れた。

「ふむふむ」

千歳さんは辺りを見回した。ドアの開いたビートル、ひび割れの走るコンクリート、不自然に剥げている一帯、通りからは死角……。状況から悟ったのか、千歳さんは「なるほど」と頷いて、

「コンクリートのひび割れを拡大していくのが楽しいのか」

恥ずかしすぎて消えてしまいたい。

「すごい。もうこちら一帯開拓されまくってるじゃん。いつからやってるの？」

たぶん頭から煙が出ている僕は、情けないほど小さな声で、

「……中一」

「中一！ もう四年もやってんの!？」

千歳さんは「はあ、そりやすごい」と感心したように呟いて、

「あ、いいのいいの。私に構わず続けて」

続けてと言われても、隣でじっくり観察されてちゃできるはずがない。

はずがない、はずだった。

まるで見えない何かに動かされるように、僕はひび割れ穿りを再開した。たぶんヤケになったんだと思う。今更逃げ出したところで、僕がここで気持ちの悪いことをしていた事実は変わらない。もうどうにでもなれ、という気持ちだったんだと思う。顔のカツカするまま、僕は意地になってひび割れに指をかけた。

そうしているうちに、涙が溜^たまつてきた。理由はわからないけれど、泣きそうになってきた。恥ずかしいやら、安心したやら、嬉しいやら、いろんな感情がぐちゃぐちゃになって、みるみる視界が滲^{にじ}んでいく。ダメだ、バカ、よせ。僕はめんたまの奥に涙を引っ込めようと眉間に皺^{しわ}を寄せた。ここでまばたきしたら一粒こぼれる。耐える。鼻のひとつもすすってはならない。隣の千歳さんに気づかれるわけにはいかない。

ハッと思う。

安心したやら、嬉しかったやら？

僕はなんで安心して、なにが嬉しかったんだろう？

その時、ビートルの陰に隠れていたちびフランケンが、ててて、とこちらへ駆けてきた。ちびフランケンには僕と同じように、瞳にいっぱい涙を溜^ためていた。小さな手を自分の口元に当てて、僕に小声で耳打ちをした。

「ちとせさんが、きもちわるがらなかったから」

そうだ。

僕のこの趣味を見ても、千歳さんはまるでいつものままだ。

そうか。だから僕は安心したのか。

いや。待て。だから、それで今、何を安心して、何が嬉しかったんだ？

するとちびフランケンは、より一層の小声で、

「ちとせさんに、あえたから」

「見つけ！」

千歳さんが大きな声を出し、僕は驚いて心臓が口から飛び出そうになった。

慌てて見ると、いつの間にか彼女は、ドアの開いたビートルの中に顔を突っ込んでいる。血の気が引くのを感じた。

あそこには――。

千歳さんはビートルの中から顔を出し、

「不自然だと思ってたんだよね。ここら一带こんなにハゲ散らかしてるのに、少しも取った後の破片がないんだもん。だから、きつとどこかに集めてるんだろうなって」

そうして千歳さんは、「じゃーん」と、持った欠片を僕に示した。

「この車は、佐々木くんの宝箱だ」

再び恥ずかしさがやってきて、僕は「あが、もが」と言った。それがまた自分への情けなさの追い打ちになって、僕はすっかり小さく
なってひび割れ穿りに戻った。

それから千歳さんは僕の後ろでござござ何かをしていたが、そのうちこちらへやってきて屈かがんだ。いっぱい欠片を持っていて、それを剥げた地面にころころと置いた。そしてひとつを取り、ひび割れと欠片の断面が合うように、右へ左へ回転させ始めた。

「……なにしてるの？」

我慢できなくなつて、僕は尋ねた。

「ひび割れに合う欠片を探してんの」

「……なんで？」

「だって、こっちの方が面白くない？」

千歳さんは言った。「パズルみたいで」

僕はひび割れから欠片を穿る。

隣で千歳さんが欠片を埋める。

「お」

欠片が亀裂と一致して、千歳さんは「よし」と拳を握った。

「完璧じゃないけど、それなりにはまった」

僕の^⑥聖域を侵されているのに、不思議と千歳さんに腹は立たない。

「佐々木くんも、ちよつとやってみなよ」

千歳さんは、僕に大きな欠片を差し出した。

⑥僕は欠片を受け取って、千歳さんと一緒に、ひび割れに合う場所を探した。

(道具小路『ひび割れから漏れる』より。出題の都合上、本文中に一部変更した箇所がある)

(注1) クロッキー帳——絵の練習に使う、無地の薄い紙で作られたノート。

(注2) 高幡不動尊金剛寺——東京都日野市にある真言宗の寺院。

(注3) 千歳さん——千歳藍子。修司の同級生。

(注4) ビートル——空き地にある廃車で、ドイツの自動車メーカーであるフォルクスワーゲン社が製造していた小型車の愛称。

問1 傍線部①の本文中における意味として適切なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

① 泡を食った

- ア 不意打ちを食らった
- イ ぼうぜんとした
- ウ 驚きあわてた
- エ 落ち着きを失った
- オ 瞬時に緊張した

問2 傍線部②の本文中における意味として適切なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

② 面と向かって

- ア 僕に対して直接はっきりと
- イ 真正面から正攻法で
- ウ 僕と二人きりになって
- エ ストレートな言い方で
- オ そ知らぬふりで

問3 傍線部㉔の本文中における意味として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

㉔ 聖域を侵されている

- ア 秘密の遊びに加担している
- イ 神聖な場所を荒らされている
- ウ ひそかな楽しみを奪われている
- エ 恥ずかしい姿を見られている
- オ 大切な領域に踏み込まれている

問4 傍線部①「うん……」とあるが、この時の「僕」の様子の説明として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア 父が部屋に入ってきた時、とっさに漫画を描いていたクロッキー帳を歴史の資料集の下に隠したが、そのことを見透かしたような父の物言いにドキドキしている。

イ 家業の電器屋の将来を気にしている父に、漫画家になりたいという夢を今日こそ打ち明けようと思っていたが、打ち明ければ失望されるのではないかと思い、勇気を出せないでいる。

ウ 「勉強か」と聞かれて反射的に「うん」と答えたものの、本当はクロッキー帳に漫画を描いていたのに嘘をついたという負い目から、父と目を合わせられないでいる。

エ 「俺はもうついていけないんだ」と弱音を吐く父に家業の経営に悩んでいる様子が見て取れて、父を助けるためのパソコンの勉強もしていないことが心苦しくなっている。

オ 「僕」が家業の電器屋を継いでくれると思っ込んでいる父は勉強よりもパソコンのことを学んでほしいと言うが、漫画家になりたい「僕」は曖昧な返事しかできないでいる。

問5 傍線部②「高幡不動尊金剛寺のお守り」は、「僕」にとってどのようなものか。その説明として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア 小学生の時に通学の安全祈願として母がランドセルにつけてくれたもので、高校生になっても常にバッグにつけて持ち歩いている、自分の分身ともいえるもの。

イ 見るたびに亡き母を思い出し悲しくなってしまうが、常にそばに置いておくことで母の存在を確かに感じることができ、母の代わりに「僕」を見守ってくれているもの。

ウ 父には心を開くことができないでいる「僕」が、ケルベロスとちびフランケンに対するのと同じように素直に向き合うことができ、「僕」に寄り添ってくれる心の支えとなっているもの。

エ 亡くなった母が「僕」の無事を願ってくれた形見のお守りであると同時に、「僕」の心が乱れている時に落ち着きを取り戻させてくれる、心を静める作用をもつもの。

オ 小学生から高校生になるまでずっと肌身離さず持つていて、大人になっても一生近くに置いておくだろうと思えるほど、「僕」にとっては何よりも大切な、母を思い出させるもの。

問 6 空欄 X に入る表現として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア 精が出るな。

イ お前には、大学受験もないんだから。

ウ 地域の老人たちを相手にするしかない。

エ 俺はもうついていけない。

オ うちみたいな小さな電器屋が生き残るには。

問7 傍線部③「だから僕はこれが好きなんだと、この時やつと気がついた。」とあるが、「僕」はどのようなことに「気がついた」のか。その説明として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア 広場のコンクリートを剥がし母が生きていたころの土でできた地面に戻すことで、母の笑顔をほんのひとときでも思い出すことができるから、コンクリートを剥がすことをやめられないのだということ。

イ 爪が欠けるまでコンクリートを剥がす作業に没入している時は、将来のことも父との確執も考えなくてすみ、母に会うこともできるから、自分はコンクリート弄りが好きなんだということ。

ウ コンクリートを穿って地肌を出すのは、「時間のかさぶた」を剥がす行為であり、かさぶたを剥がして傷の治りを確認するように、母を亡くした心の傷が治ったことを確かめようとしているということ。

エ コンクリートが、まだ土でできていたこの広場で共に過ごした母の姿を思い出させまいとするかさぶたのような気がして、母に会いたい気持ち募るたびにコンクリートを剥がしに来てしまうということ。

オ 広場のコンクリートは、母を亡くした「僕」の悲しみを癒やそうとする時間の経過の象徴であるが、母を忘れたくない「僕」は、母の面影を求めてひび割れを拡大させ、剥がし続けているのだということ。

問8 傍線部④「僕は、たまたまビートルの脇にいるケルベロスとちびフランケンに助けを求める視線を送った。」とあるが、この時の「僕」の様子の説明として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア コンクリートを剥がす「僕」に不審を抱いた千歳さんは「僕」を問いただそうとしているが、きっと気持ち悪いと思われたに違いないと絶望する「僕」は、千歳さんの視線から逃れようとしている。

イ コンクリート剥がしに熱中しているところを千歳さんに見られて気が動転し、恥ずかしさでいっぱいになりつつも何とか切り抜けようとするが、どう返事をすべきかわからず狼狽ろうばいしている。

ウ にやにや笑いながら、コンクリートを剥がすのは「僕」の秘密の趣味なのかと尋ねる千歳さんに、きっと周りにばらされると感じてどう言い訳をすればいいかと逃れるすべを懸命に考えている。

エ 千歳さんに見られるという想定外の出来事に動揺し、言葉も出ないほど追い詰められているが、ケルベロスとちびフランケンまで見られることがないようにと祈るような気持ちになっている。

オ コンクリート剥がしは確かに「秘密」ではあるが、母に会いたいという切実な願いを込めた行為なので、それを「趣味」だと認めるのは納得がいかず、即答できないでいる。

問9 傍線部⑤「僕は欠片を受け取って、千歳さんと一緒に、ひび割れに合う場所を探した。」とあるが、この時の「僕」の様子の説明として
適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア はじめは焦って泣きたくなかったが、恥ずかしくて気持ちの悪いことをしていた「僕」の行為を批判することもなく、むしろ無理やりに距離を詰めてくる千歳さんに対して腹は立たなくなっている。

イ 千歳さんにビートルの中の破片を見つけられてすっかり消沈していたが、「僕」の趣味を自然に受け入れ、その先の楽しみに誘ってくれたことで、母へのこだわりが一時的に紛れている。

ウ 千歳さんが気持ち悪がらなかったことに安心したが、剥がした破片を見つけられてまたもや恥ずかしさと情けなさが募って萎縮してしまい、千歳さんの指示に黙って従うしなくなっている。

エ コンクリート剥がしを見つけただけでも肩身が狭いのに、ビートルの中に剥がした後の破片を見つけられ、せっかく剥がした破片をまた元通りにしようとする千歳さんにあきれている。

オ 千歳さんに会えたことも、千歳さんが気持ち悪がらなかったことも嬉しかったが、「僕」の趣味に無遠慮に首を突っ込んでくる千歳さんに怒る気も失せて、千歳さんの提案に唯々諾々と従っている。

問 10 本文の表現についての説明として適当でないものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア 「体温計の水銀が下がっていくみたい」「金魚みたいに口をぱくぱくさせる」などのイメージしやすい直喩によって、「僕」の状態や心情をわかりやすく伝えている。

イ ケルベロスとちびフランケンという架空のキャラクターは、「僕」の友達であると同時に「僕」の気持ちの代弁者であり、「僕」の内面を表現する役割を果たしている。

ウ 千歳さんと会って以降は、「僕」の狼狽ぶりを描くために「見られた」「ハッと思う。」などの短文が多用され、短文のない前半に比べてテンポよく物語が進行している。

エ 一貫して「僕」の視点で物語が進行しているが、実在しているかのようなケルベロスとちびフランケンの描写により、「僕」一人の場面の単調さを解消させる効果を上げている。

オ 「行き交う車の音とセミの声だけが聞こえる、夜の空き地。」などの体言止めや、「時間のかさぶた」「混乱して出口に殺到する思考」のような巧みな修辞によって、「僕」の心理を印象的に表現する文章になっている。

第二問 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

私は、自由意志は存在しないと考えているが、^(注1)BodySharingを通して個を保ったまま自由に主体的に生きる姿を構想している。

そのヒントとすべく、動物と人間と自由意志の関係について考えてみたい。

南極の基地に人がやってくると、^①ペンギンたちは自分たちのコロニーから10キロも離れているにもかかわらず、わざわざ歩いてくるのだという。外からやってきた人は、環境保護の観点からペンギンに触ったり遊んだりはできないが、ペンギンたちはそれでも近付いてきていろいろと観察をする。彼らにとつても、それだけの距離を歩くのは大変なことのはずなのに、観察だけして帰っていくという謎の行動をとるのだ。ペンギンたちにはおそろくかなり強い「好奇心」がある。しかし、それらの経験に基づく知識が他のペンギンたちに伝達されて、種に保存されている様子は観測されていない。

通常、ペンギンたちには自由意志があるとは見なされないが、ペンギンたちを突き動かすのは本当に本能に埋め込まれた^(注2)アルゴリズムだけなのだろうか。

私は^②文鳥を飼っている。

その文鳥に赤いものを見せると、凄く^{すこ}怖がる。茶色いものはギリギリOKなのだが、今やネイルもおいそれとはできない。しかし、この感覚はどうやら種に保存されたものではなくて、その鳥の個性のようなのだ。以前に飼っていた文鳥は、別に何色のネイルでも「どうってことねえ」

という態度で手に乗ってきた。では、文鳥の好みは、人のそれと何が違うのだろうか。

私たち動物は、時に本能のアルゴリズムとは違う何かをしようとしているのではないかと感じることもある。それは、自由意志とは言えないまでも、その小さな萌芽^{ほうが}とも言えるような意識があるのかもしれない。

(注³) テイヤール・ド・シャルダンは、複雑性のカオスこそが知性だと見なす。

石も植物も動物も、あらゆるものに意識の萌芽があり、それらの複雑性が増していき、ある臨界点を超えた時に「生命」が生じ、次の臨界点を超えた時に「意識」が生じ、次の臨界点を超えた時に「知性」が生じると考えていた。つまり、自由意志もカオスによって生まれる。(I)

これは名著『現象としての人間』の中で「複雑性Ⅱ意識の法則」と記されている。

物理や化学の世界では、基本的には物理法則や数学的要素によってカオスが生まれる。これは学問的には複雑系と言われており、工学においては複雑系工学と呼ばれるもので、後々 AI などの研究につながっていく学問だ。

その中で^③カオスを生み出すのは、基本的には数学的なもの、物理的なものであり、特定のモデルがそれらのもとになっている。生命の誕生と死を計算機上でシミュレーションする「ライフゲーム」のような複雑な動きも、単純なモデルで生み出せるのだ。ただし、テイヤール・ド・シャルダンの理論では、複雑性を増していく延長線上にありながら、複雑系では^④トウタツできないカオスが、世界で自動発生しているということになる。(II)

例えば、職場の人が、ある日よく分からないところでイライラしていたとする。そんな時、私たちは「凄いランダムにイライラする人だな」

と面倒に思ったりする。しかし、ランチや雑談などでいろいろとその人の話を聞いてみると、「朝食べられなくて、ただお腹が空いていただけ」だったとか、「実は朝、体重計に乗ったら前より増えていたから」だとか、生理などで少し身体的不調があったりだとか、些細なことでイライラしていただけだと分かったりする。人にはそういうことがよくあるものだろう。

では、科学的にもプロセス的にも全く理解できない、^⑥カインゲンすれば遺伝子でも環境要因でも説明できない複雑性のカオスによって「物事を知りたくなる」とか「イライラする」という状況はどのようなものだろうか。

その一つに「私は自分の意志で物を知りたくなっている（好奇心）」「私は自分の意志でイライラしている」というものがあると考えられる。

このような違和感を覚えさせる何の要素にもよらない考えや行動は、科学でも物理でも数学でも証明できない。（Ⅲ）

逆にカオスを証明できないという状態が維持されている限り、我々は個人として自由意志を持っているかのように生きていける可能性が残されたままだとも言える。テイヤール・ド・シャルダンは複雑性Ⅱ意識の法則から神や自由意志を導いてすらいるからだ。（Ⅳ）

我々は日々の暮らしの中でいろいろな選択をしながら生きている。例えば今日の朝は何を食べようとか、どんな服を着ようか、などというごく些細なものも含めて、無数の選択の機会がある。

私たちは、自身の文化やこれまでの人生経験、その時の環境や心身の状態など、さまざまな要因によって自然に選択肢を選び取りながら過ごしている。

哲学者の國分功一郎氏は、自由意志とは、選択する際に突然現れて、選択から過去の影響を切断しようとする概念だと述べる。つまり、複雑系で生み出せない、プロセスと無関係なカオスのことだ。さらに、國分氏は、自由意志はその選択を事象の始まりとして扱い、行為者の責任を

問うために機能しているという事実を明らかにしている。(V)

國分氏は、医師の熊谷晋一郎氏との対談集『〈責任〉の生成』の中でも、お昼^{くまがやしんいちろう}に食べたうどんを例に挙げてその原因を無限に辿れることを示し、④意志の虚構性^{たど}について話している。

確かに、私たちが一見うどんを食べる選択をしているように見える時も、その理由を辿れば、「お腹の調子が少し悪くて、そういう時は親がうどんを出してくれたから」かもしれない。

一方で、そもそも日本でうどんが生み出されていなければ「うどんを食べる」という選択ができないだろうし、そして私たちが日本で生まれていなければ、やはり「うどんを食べる」という文化に馴染^{なじ}んでいなかっただろう。このように、うどんを選択した要因を辿っていくと、本当に自分が意志によって選んだとは言えなくなってくる。

それにもかかわらず僕が「自分の意志でうどんを食べることに決めました」と言うとしたら、それは因果関係を意志の向こう側にまで遡っていくのを単に避けているだけです。別の言い方をすれば、意志という概念を使って、因果関係を恣意的に切断してしまっているわけです。意志という概念が切断の効果をもつことがわかります。そしてそれは、本来切断できないものを切断しているわけです。

國分功一郎、熊谷晋一郎『〈責任〉の生成』

能動とも受動とも言えない選択について、國分氏は「中動態」であると言う。かつて古代ギリシャ語などのインドヨーロッパ語の態は、^⑤能動態と受動態が対立するものではなく、能動態と中動態が対立する状態を表していたという。

中動態は理由や原因、制約から生じた行為や選択を表す。我々が日々こなしている無数の選択は、このような能動とも受動とも言い難いものがほとんどだ。

つまり、自由意志という存在は、そもそも人にとって無理のある概念の可能性がある。國分氏もまた人間の自由意志の存在を否定しているのだ。

では、やはり人間に自由意志はなく、また自由もないのだろうか。

しかし、國分氏の著書『中動態の世界』の最後では「自由意志や意志を否定することは自由を追い求めることとまったく矛盾しない」と記されている。そして、そのためにはまず「意志と選択は明確に区別されなければならない」と語られる。

選択↓過去からの帰結としてあるもの

意志↓

X

國分氏は、哲学者のスピノザが考える人間の自由の定義を紹介し「自己の本性の必然性に基づいて行為する」ことこそ自由なのであり、それゆえに「自由になるための道筋も、一人一人で異なる具体的なものになる」のだと述べる。

BodySharing は、ある人が生きてきた過程のログを取るため、その人に固有の体験を明らかにできる。そしてそれらのログ、ビッグデータがカイ^⑥セキされるならば、将来に向けた自分らしく生きるための必然的な行為が自ずと見えるだろう。

現代社会が、人や社会をインターフェイスにすることで、私たちの欲求を先回りして叶えてくれる決定論的な世界になりつつあることはすでに述べてきた。そしてそのような知恵がこれまでの社会においても利用されてきたことも記している。

人間の選択は、すなわち自分の生を引き受け、自分らしく生きていくための選択というものは、ビッグデータとAIの概念の登場以前から存在していて、我々はそれを引き受けて生きてきた。これから先、テクノロジーの発展とともに未来がすべて予測された時代に入り、そして我々がインターフェイスや環境に左右される存在に過ぎなかったとしても、BodySharingなどが可視化する自分らしい選択肢を自分の手で選ぶという事は、主體的で自由であるとも言える。

BodySharingやAIの普及ですべてが予測可能になったとしても、「選択をする」「選択ができる」ということに人の「自由」や「幸福」があるのではないか。

自由意志はなくても、人は主體的に未来を「選択」していくことは可能なのだ。

現代においては、依存症や犯罪などに関しての責任は本人にあるということがコンセンサスとなっている。だが、中動が許容されるのなら、原因や理由は自分の外にあるわけで、では自己の責任はどこにあるのかという議論になってくる。

『責任』の生成』の中では、責任を一旦宙に浮かせてみて、そこから事象を客観的に見ることによって、逆に依存症者たちが責任を主體的に引き受けていくという状況が生まれていることが記されていた。

ビッグデータ、AI、BodySharingやBMIなどのインターフェイスが人類をさまざまな制約から解放すると同時に、一見未来予測に縛り付けようとするかに見える決定論的世界を、私たちが自由に生きていくためのヒントは、このあたりにあるのかもしれない。

(玉城絵美『BODY SHARING 身体の制約なき未来』より。出題の都合上、本文中に一部省略した箇所がある)

(注1) BodySharing——「体験共有」を表す語で、ロボット・キャラクター・遠くにいる人など、自分ではない他の身体と相互に体験を共有するシステム。

(注2) アルゴリズム——問題を解決するための計算方法や手順のこと。

(注3) テイヤール・ド・シャルダン——フランスの古生物学者・カトリック思想家でカトリック司祭（一八八一～一九五五年）。

問11 傍線部②に相当する漢字を含むものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

② トウタツ

- ア 豪華な店の雰囲気にアツトウされる
- イ 野生動物に備わっているトウソウ本能
- ウ バイオリンの名演奏にトウスイする
- エ 戦争はトウテイ許されるものではない
- オ 地球温暖化対策のトウギを行う

問 12 傍線部⑥に相当する漢字を含むものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

⑥ カンゲン

- ア カンキユウジザイのピッチング
- イ 雨がやんだので、窓を開けてカンキする
- ウ 観衆からカンコの声上がる
- エ 奨学金のヘンカン手続きを行う
- オ 使用法について注意をカンキする

問 13 傍線部⑦に相当する漢字を含むものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

⑦ カイセキ

- ア 実験のブンセキデータを記入する
- イ セキジツの面影を残す町並み
- ウ わずかな点差でセキハイする
- エ 新商品の売上でギョウセキが好調となる
- オ 日本製品をハイセキする動きに警戒する

問 14 空欄 X に入る表現として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

- ア 自由を追い求めることを阻害しないもの
- イ 過去とは必ずしも対立しないもの
- ウ 人間の自由と主体性が具現化したもの
- エ 無理やり過去を切り離そうとするもの
- オ 自分らしく生きるために必然的なもの

問15 次の一文は、本文中の（Ⅰ）～（Ⅴ）のうちどの部分に付け加えることができるか。適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

カオスの知性と意志の存在証明は我々が研究によって踏み入れない領域、つまり神を証明することとあまり変わらなくなる。

- ア（Ⅰ） イ（Ⅱ） ウ（Ⅲ） エ（Ⅳ） オ（Ⅴ）

問 16 傍線部①「ペンギンたち」、傍線部②「文鳥」とあるが、筆者がこれらの具体例を挙げた意図の説明として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア ペンギンたちが10キロも離れている南極の基地に意味もなく歩いてくるといふ例や、文鳥は個体によって怖がる色が異なるという例によって、動物や鳥にも人間と同じように好奇心があることを示し、自由意志と好奇心との関係を暗示する意図。

イ ペンギンたちを突き動かしたり、特定の色を怖がる文鳥がいたりするという例を挙げて、動物も鳥も本能に埋め込まれたアルゴリズムにしたがって行動することを示し、人間では本能より自由意志が優先されることを実証しようとする意図。

ウ ペンギンの社会では経験に基づく知識が他の個体に伝達されて種に保存されている様子はなく、文鳥の色の好みも種に保存されたものではないということを示す例を挙げて、人間の場合は他者の経験が文化として種に保存されていることを示す意図。

エ ペンギンが南極の基地にわざわざ歩いてきて人間の様子を観察したり、文鳥が特定の色のネイルを嫌がったりするという例によって、知性のない動物や鳥にも自由意志があることを示し、自由意志を持つのは人間だけではないことを主張する意図。

オ ペンギンや文鳥が示す好奇心や好き嫌いには本能のアルゴリズムとは別の何らかの意識が作用していると思われる例を挙げて、動物や鳥には自由意志はないとされるが、人間に自由意志はあるのかという問題を考察するための導入とする意図。

問 17 傍線部③「カオスを生み出すのは、基本的には数学的なもの、物理的なものであり、特定のモデルがそれらのもとになっている」とあるが、このことから筆者が導こうとしているのはどういうことか。その説明として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

- ア カオスは、ある特定の単純なモデルに些細な変動が加わることによって複雑な様相を呈しているものであるということ。
- イ カオスは、物理法則や数学的要素によって生まれるものであり、基本的には計算可能なものであるということ。
- ウ カオスは、「ライフゲーム」のように計算機上でシミュレーションでできる点で、出現が予測可能なものであるということ。
- エ カオスは、人間のイライラにも何らかの原因があるように、世界中で自動的に発生しているものであるということ。
- オ カオスは、生命の誕生↓意識の萌芽↓知性の兆しのような階層を持つ構造の中で複雑性を増していくものであるということ。

問 18 傍線部④「意志の虚構性」とあるが、これについての國分功一郎氏の見解の説明として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

い。

ア 私たちは自らの意志によって選択していると考えがちだが、選択には能動とも受動とも言えない「中動態」の選択があり、自由意志はそこには介入していないとみるべきであるという見解。

イ 「うどんを食べる」という具体例においても、因果関係を辿っていけば、うどんが日本で生まれた文化だからという、生まれる前の要因に行き着くので、選択は意志とは無関係であるという見解。

ウ ある行動を選択する際、その選択の背景には過去からつながるプロセスが選択の要因として存在するため、プロセスとは無関係に自身の意志のみによって主体的に選択したとは言えないという見解。

エ 私たちは日々さまざまな選択をしながら生きており、意識しているかどうかにかかわらずそれを選択させた原因が存在するが、その原因を無限に辿っていくことなど不可能であるという見解。

オ 自由意志は、選択に至るプロセスを無視し、その選択は行為者が自分の責任において行なったものという事実を担保することで、行為者の責任を問うために生み出された虚構に過ぎないという見解。

問 19 傍線部⑤「能動態と受動態が対立するものではなく、能動態と中動態が対立する状態を表していた」とあるが、筆者はこの内容を引用

してどういうことを述べようとしているのか。その説明として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア 「中動態」は、日本語の「生まれる／産まれる」のような能動態との対立状態を表すものであり、主体の自由意志を基準とした考え方がかつて存在したということ。

イ 「中動態」は、「する／される」という二項対立とは異なる概念で、意志により選んだのではなく、過去からの帰結として生じた選択が日常生活の大半を占めているということ。

ウ 「中動態」は、能動態と受動態の間にある概念であることを示すことで、「選んだ」と「選ばれた」の間である「やむを得ず選ばされた」という選択も存在しているということ。

エ 「中動態」は、行為の原因を自分の内側に置く能動態と行為の結果を自分の外側に置く中動態の対立状態を反映したものであり、選択の良し悪しは行為の動機と結果から判断されるということ。

オ 「中動態」は、理由や原因、制約から生じた行為や選択を表し、「自分の意志で決めた」という一見能動的な選択は、実は意志は全く働いていない選択であるということ。

問 20 本文の要旨として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア 自分の生を引き受け、自分らしく生きていくための選択を生きてきた時代から、テクノロジーの発展とともに未来がすべて予測された時代に入ったことで、現代人はインターフェースや環境に左右される存在になってしまった。

イ 國分氏は人間の自由意志の存在を否定しつつも、自由意志の否定は自由の否定につながるものではなく、自由になるための道筋は一人一人異なるが、自由になるための道筋は普遍的なものであると考えている。

ウ カオスは学問的には複雑系と言われ、工学においては複雑系工学と呼ばれるが、「物事を知りたくなる」とか「イライラする」という状況は、知性や意志とは無関係に複雑性を増していく人間における複雑系のカオスと言える。

エ 現代社会が、AIが私たちの欲求を先回りして叶えてくれる決定論的な世界になりつつあっても、人間には「選択をする」自由があるので、BodySharingなどが可視化する選択肢を活用して自分らしく主体的に生きることは可能である。

オ 能動とも受動とも言えない「中動態」が許容されるなら、依存症や犯罪などに関与した原因や理由は本人の外部にあることになるため、責任を問うのではなく、事象を客観的に見ることで責任を主体的に引き受けさせていくことが肝要だ。

第三問 次の設問に答えなさい。

問21 次の文の傍線部の四字熟語の正しい意味はどれか、ア～オの中から選んで答えなさい。

社運をかけたプロジェクトのメンバーに**拔擢**はってきされた彼だが、社内では**夜郎自大**だと評する者も多い。

- ア 与えられた役目に対して、実力が不足していること。
- イ その人の能力に見合った地位や任務を与えること。
- ウ 自分の力量もわきまえず勘違いして尊大にふるまうこと。
- エ その人の力量に対して、役目や役職が軽すぎること。
- オ 同じ仲間の中で最も早く出世した人のこと。

問 22 次の文の傍線部の故事成語の正しい意味はどれか、ア～オの中から選んで答えなさい。

この作品は大衆文学の白眉といえる。

- ア 平均よりも劣っているもの。
- イ 多くの中で異彩を放っているもの。
- ウ 多くの中で最もつまらないもの。
- エ 同じようなものの中で特に優れているもの。
- オ あるジャンルの代表とされるもの。

問23 次の文の傍線部の語句の正しい意味はどれか、ア～オの中から選んで答えなさい。

情報の洪水の中で、検索結果からその人の傾向に合わせたコンテンツを選択的に提示してくれる検索エンジンは、便利なようでいてフィルターバブルの危険性も存在する。

- ア 社会に多大な影響力を持つ人の発言に大多数の人が無批判に追従すること。
- イ 価値観の似たもの同士が共感しあうことで自分の意見が強化されること。
- ウ 情報通信技術やデジタル機器を持つ人と持たない人の情報格差が広がること。
- エ 自分と異なる価値観や考え方に触れる機会が減って視野が狭くなること。
- オ インターネット情報提供者が都合のいい情報だけを利用者に提示すること。

問 24 次の文の傍線部の語句の正しい意味はどれか、ア～オの中から選んで答えなさい。

働き方改革により効率性の向上が求められていることに加えて、コロナ禍でオンライン会議が一般的になったことで、ファシリテーションがより重視されている。

- ア 豊富な知識や経験を有した人が、会議の方向性を率先して主導すること。
- イ ある課題に対して短時間に多くのアイデアを出し、優れたものを抽出すること。
- ウ 参加者が提出した意見や報告をもとに、組織の長が素早く判断を下すこと。
- エ 利害関係のある人物間で意見が対立した際に、納得による合意を目指すこと。
- オ 参加者全員から意見を引き出して整理し、円滑な合意形成を支援すること。

問25 次の文の空欄に当てはまる語を、ア～オの中から選んで答えなさい。

立場の弱い発展途上国の生産者や労働者の生活改善を目的に、先進国が現地の製品や原材料を適正な価格で購入する、NGOなどが取り組んでいる施策を と呼んでいるが、一般的な価格よりも割高になるため、思うように拡大しない点が課題である。

- ア グローバリゼーション
- イ オルタナティブ
- ウ コモディティ
- エ フェアトレード
- オ サステイナブル

